

火災災害対策編

第1章 総則

第1節 本市の火災を取り巻く環境

市街地、準市街地等の状況、野外堆積物の状況、林野に関する状況等大規模火災・林野火災対策面から見た本県の環境を明らかにし、効果的な火災対策の実施に資する。

1 市街地等の状況

消防力の整備指針においては、建築物の密集した地域のうち、平均建蔽率が概ね10%以上の街区の連続した区域又は2以上の準市街地が相互に近接している区域であって、その区域内の人口が1万以上のものを市街地、建築物の密集した地域のうち、平均建蔽率が概ね10%以上の街区の連続した区域であって、その区域内の人口が1,000以上1万未満のものを準市街地というが、平成27(2015)年4月1日現在、市内には、市街地が1箇所、準市街地が8箇所存在する。

2 野外堆積物の状況

市内においては、古タイヤ、使用済自動車、廃棄物等が野外に堆積されている箇所があり、そうした場所での火災の発生の危険性は地域住民に不安を与えるなど社会的影響も大きい。

3 林野の状況

本市は、中央を流れる那珂川から茨城県の境まで、八溝山地からなる林野地域となっている。また、冬季には、空気が乾燥し、「那須おろし」と呼ばれる強い北西の風も吹くため、いったん林野で火災が発生すると大火災となる危険性がある。

第2節 本市に被害を及ぼした主な火災

本市に被害を及ぼした大規模火災・林野火災の概要を知ることにより、的確な災害対策に資する。

1 主な火災の概要

発生年月日	区分	場所	被害状況等
昭和2(1927)年 2月20日	大火	旧野崎村	75戸全焼、重症者10数名
昭和16(1941)年 1月17日	大火	旧野崎村	住家16戸、非住家34棟全焼
昭和20(1945)年 3月17日	大火	旧川西町	住宅46戸128棟全焼
昭和23(1948)年 3月5日	大火	旧野崎村	住家62戸、非住家180棟、保有米2,000俵全焼、死者1名

[参考資料：栃木県60年間の異常気象(1901～1960年)，黒羽町史]

○旧馬頭町・旧黒羽町林野火災(昭和52(1977)年3月15日～16日)

(1) 火災の概要

連日のように異常乾燥注意報が発令される中、旧黒羽町大字北滝の非住家に小学生が放火したことが原因で火災が発生し、日本海の低気圧から延びる寒冷前線が通過したことに伴う強風が吹き、たちまち火は旧馬頭町まで延焼し大きな林野火災となった。

(2) 被害概況

住家被害 9棟(罹災世帯 8世帯 47名)

林野焼損面積 1,518ha

被害総額 3,472百万円

[出典：「黒羽町・馬頭町林野火災(その状況と対策)」 昭和52(1977)年11月栃木県林務観光部]